

# 会 報

令和 4 年 3 月 31 日 発行

## 多様で魅力的なテーマの広がり ースポーツはどこに向かうのかー

井上洋一（奈良女子大学）

スポーツが市民生活に身近となったと評価される 1970 年代から 50 年、そして本学会の前身であるスポーツ行政研究会が創設されてから 30 年ほどが経過したことになる。あらためて、時の経過の早さを感じている。この期間を通して、スポーツは私たちの社会や個人々の生活にとって、より近くなってきたのだろうか。また、コロナ渦を経験して、どこに向かおうとしているのだろうか。

スポーツの広がりには様々な意味や価値を創造しつつ発展してきたが、その課題もまたたくさんある。たとえば、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会の総括、レガシーの検証は、まさにはじまったばかりである。コロナ渦の特殊な環境でなんとか開催に漕ぎつけたメガ・イベントの影響は、そのハード、ソフトのレガシーとともにオリンピックへの一定の反発感情等も生んだ。また一方では、日本のスポーツ基盤を支えてきた学校運動部活動の地域移行のスタートなど、今後の生涯スポーツの方向性を左右する課題が迫っている。この地域移行の発想は、1970 年代に浮上したものの、地域にその受け皿が十分でないために成功しなかったとされているが、とくに中学校での土日や祝日の活動について、今後 3 年を移行期とした旗振りは実を結ぶであろうか。これにより、子どもが望むスポーツ種目を経験できること、教員の過剰負担を改善することなどの可能性が膨らむ反面、加熱しすぎる活動の抑制や適切な指導者の確保、予算に影響される地域間格差、学校間の格差、受益者負担などの課題もある。加えて、青少年期のスポーツ活動機会を少ない経済的負担で保障してきたセーフティネット機能の喪失の可能性も考えられる。それらに対応できる制度設計の工夫が進み、学校運動部活動とその後の生涯スポーツを一体的にとらえ、多様な選択肢が保障され構築できるならば、競技スポーツの保障とともに、スポーツの生活化への流れも見えてくるかもしれない。

そのような中、スポーツ庁から本年(2022)3月に示された第3期スポーツ基本計画では、これまでの標語に加えて、①スポーツを「つくる/はぐくむ」、②「あつまり」、スポーツを「ともに」行い

「つながり」を感じる、③スポーツに「誰もがアクセス」できる、の新たな 3 つの視点を掲げた。コロナ渦の中で、必要性が再確認された運動・スポーツは、一部エクササイズとして個人の健康を支えた半面、まさに、リアルな場で体感しながら作り上げてゆくスポーツはその場を無くし、そのマイナスマ面はあまりにも大きかったともいえる。この 2 年を超える期間が子どもたち、学生、高齢者を含む各年齢層へ及ぼしてきた影響の検証も今後残されている。

さらに、国際的な動向に目を向けると、あまりに理不尽な国際紛争が生じ、そのことは当然ながらスポーツ界にも重大な課題としていま降りかかっている。国際間の平和共存を希求し、人の尊厳に最も重きを置き、差別のない社会を形成しようとするオリンピズムやスポーツ理念と、一方で、国籍を理由に当該国のアスリートの参加を認めないとする決定は、ともすると大きな溝を生み、矛盾を抱えてしまう。差別のない個人としての参加資格の問題とどう折り合いをつけるか、国際スポーツ組織、各国のスポーツ組織の対応などは困難を極め、大変重たい課題を突き付けている。

このように、多様な課題そして難しいが魅力的なテーマがスポーツ政策学会の研究対象として横たわっている。スポーツ文化を尊重し、研究組織としての自立性をもってあたることが私たちに求められている。

## 《学会大会報告》

### 日本体育・スポーツ政策学会 第 31 回大会報告

実行委員長 森克己（鹿屋体育大学）

日本体育・スポーツ政策学会第 31 回大会を 2021 年 11 月 27 日（土）に開催致しました。コロナの感染状況が不透明であったため、昨年度に引き続き、全面オンラインでの開催となりました。また、同大会は、鹿屋体育大学に実行委員会の事務局を置き、同大学の開学四十周年記念事業「記念体育・スポーツ事業」として、97 名の参加により、開催しました。

第 31 回大会は「スポーツ・インテグリティに関わるスポーツ政策の在り方を考える－日本でのアスリート保護に関する実効的な制度構築に向けて」をテーマとしました。

本大会の開催主旨は、概ね次のとおりとしました。まず、スポーツに関わる倫理的問題について、IOC は「インテグリティは信頼性を含意し、競争とスポーツ団体の信頼性はオリンピッ

クアジェンダ 2020 の 3 つの柱の一つである」とし、競争のインテグリティとして IOC が取り組む 3 つの課題として「ドーピングとの闘い」「競争の操作の防止」「スポーツにおけるハラスメント及び虐待の防止」を掲げ、ハラスメント及び虐待をドーピングと並びインテグリティの問題として捉えています。そして、スポーツ指導者によるハラスメント及び虐待の問題については、アメリカにおける指導者による女子体操選手への性的虐待事件の発生など、国際的にも問題となっています。また、日本においては、2020 年 7 月にヒューマン・ライツ・ウォッチが日本の体育・スポーツ界における子どもへの指導者による体罰の問題について報告書を策定し、2021 年 1 月には、沖縄県の県立高校の部活動顧問教諭による体罰・暴言を苦にした部活動のキャプテンが自殺した事件の発生など、依然として解消されていません。

このような状況の下で、2017 年 11 月に IOC は、IF 及び NOC を対象として「IOC アスリート保護ツールキット」（IOC Athlete Safeguarding Toolkit）を策定し、IF 及び NOC

に対して、Safeguarding Officer の設置やガイドラインの策定を促し、2021 年9月から IOC は Safeguarding Officer の資格を認定するためのオンラインでの研修制度を開始しました。

以上のような国内及び国際的な取組を踏まえ、本学会大会は、2020 東京オリンピック・パラリンピック大会後の今後の日本の体育・スポーツ界において、指導者による体罰・虐待防止のための実効的な政策をどのようにして展開していくかについて、国際的な動向を加味して議論する機会とすることを主旨としました。

本学会大会では、IOC の前記オンライン研修制度の内容を検討するため 2021 年3月に設置された IOC の Advisory Board の責任者である前 NSPCC CPSU (全英子ども虐待防止協会・スポーツにおける子ども保護局) ディレクターのアン・ティバース氏、同 Board メンバーのラフバラ大学ダニエル・ラインド氏、ハートフォードシャー大学のマイク・カラン氏を招へいし、国際的な取組の状況や英国スポーツ団体での取組状況等について基調講演がありました。

また、基調講演に先立ち、日本における指導者による体罰・虐待防止の取組について、本学会の会員である森岡裕策氏 (公益財団法人日本スポーツ協会)、石堂典秀氏 (中京大学)、山田理恵氏 (鹿屋体育大学)・森克己 (鹿屋体育大学、IOC Advisory Board member) による講演がありました。

イギリスの研究者による基調講演後に、登壇した日英の研究者によるパネルディスカッションが行われ、英国の研究者から、日本で制度を導入する場合は、国の主導により、全スポーツ団体を網羅する制度とする必要があること、子どもと大人対象の制度を分けることがないようにした方が良いこと等の示唆があり、日本における制度導入を考えるうえで大変貴重な機会となりました。

一般研究発表では、前回に引き続き、各発表には指定討論者を指名させていただき、発表者による概要報告の後で、指定討論者による論点整理や質疑、意見の提示があり、発表者からの応答がありました。オンライン形式で開催される学会大会での一般研究発表の運営方法については、いろいろなお意見があるようですので、次回に向けた検討課題としていただければと存じます。

最後になりましたが、第 31 回大会の準備、開催にご尽力を賜りました、日本体育・スポーツ政策学会、第 31 回学会大会の実行委員会の皆様、学会大会をご後援いただいたスポーツ庁及び鹿屋体育大学の皆様に感謝申し上げ、第 31 回学会大会の報告とさせていただきます。



## 学会大会を終えて

南方隆太 (筑波大学大学院)

日本体育・スポーツ政策学会第 31 回学会大会に参加し、一般研究発表をさせていただきました。本学会大会は、前回大会と同様にオンライン方式での開催となり、先生方と直接お話しさせていただく機会がなく残念に思う一方で、基調講演では、国際的に活躍されている海外の先生方のご講演を拝聴できる素晴らしい機会を得ることができました。

私は、本学会大会で「野球競技統括団体の組織構造：政策実施過程に着目して」という題目

のもと、日本の野球競技統括団体の組織間構造と野球の競技人口政策に係る政策ネットワークについて一般研究発表をさせていただきました。私は、今回の発表が日本体育・スポーツ政策学会で3回目の学会発表となりました。今回も指定等論者を務めていただきました菊幸一先生をはじめ、多くの先生から貴重なご意見、アドバイスをいただくことができ非常に有意義な時間となりました。また、普段議論を交わすことができない先生方からご意見を頂戴できたことで、自身の研究を見つめ直す良いきっかけとなりました。

そして、大会当日は、「日本のスポーツインテグリティに関わるスポーツ政策の在り方」をテーマに、日本のスポーツ現場における暴力や体罰・虐待防止のための政策・制度について講演が行われました。第一部では、日本スポーツ協会のスポーツインテグリティに関する制度や、海外の体罰・虐待防止に関する制度事例のご講演を拝聴しました。第二部の基調講演では、スポーツインテグリティに関する国際的な取り組みを海外の先生方にご講演いただき、日本のスポーツインテグリティに関するスポーツ政策の在り方を考える貴重な経験をすることができました。

最後に、このような貴重な研究の場を提供してくださった学会大会運営委員会の皆様、本学会関係者の皆様、私の研究発表についてご意見をいただきました先生方、私の研究に熱心にご指導くださる指導教授の先生に深く御礼申し上げます。

#### 学会大会に参加して

山本竜翔（鹿屋体育大学大学院）

2021年11月27日に開催された、日本体育・

スポーツ政策学会第31回大会に参加させていただきました、山本竜翔と申します。まずは一般研究発表という大変貴重な機会を頂けたこと、大変光栄であり、誠に感謝申し上げます。

さて、私は「平和アイデンティティ」という新たな概念を提唱し、その概念の平和の実現の可能性に関して研究致しました。今回の学会では、それを平和との繋がりの深いスポーツと結びつけ、スポーツ政策としてどのような活用ができるかを発表致しました。この「平和アイデンティティ」という概念は、未だ提唱されていない新しい概念であり、他の平和・スポーツ研究とは趣旨が違うことは存じております。また本研究は文献研究の手法を用いた哲学的な考察であり、根拠の曖昧性のあるものとなっております。指定討論者である立命館大学産業社会学部の金子史弥准教授にもその点をご指摘され、自分の研究の甘さを実感しました。また、研究手法や主張の根拠の甘さなどもご指摘頂き、再度自分の研究を始めから見直しました。昨春提出した修士論文は、そういったご意見ご指導により完成されたものであります。誠に有難うございました。

今回私にとって初めての学会発表であり、修士学生として尽力を尽くした研究ですが、専門家の先生方にご納得して頂ける内容ではなかったかもしれません。ですが、研究・論文執筆の難しさやその奥深さを実感した1日であり、今後の私の人生において深く役立つ経験であったことは間違いがありません。この場を借りて感謝申し上げます。

最後に、お忙しい中、新型コロナ渦にも関わらず学会を開催してくれた実行委員やスタッフの方々、私の発表をご覧になって下さった方々、立命館大学の金子史弥准教授、そして指導教員の鹿屋体育大学の山田教授と森教授に、改めて厚く御礼申し上げます。

《セミナー報告》

日本体育・スポーツ政策学会  
関西セミナー報告

セミナー担当理事 内藤正和

関西セミナーは、昨年に引き続き、ビデオ会議アプリ(zoom)を使用して開催した。講師は、体育・スポーツ政策に携わる方だけでなく、多様な分野の方をお招きしている。内容については、まず前半部分で講義いただき、後半部分では、講師と参加者による積極的な議論が行われている。今後も、学会員にとって有意義なセミナーを開催したいと考えている。

＜2021 年度第 1 回関西セミナー＞

日時 2021 年 5 月 8 日 (土) 13:00～16:00

テーマ 社会投資とインパクト評価の取組みについて

講師 野池雅人 氏(プラスソーシャルインベストメント株式会社代表取締役)

概要 インパクト評価やソーシャルインパクトボンド (SIB) や投資型のクラウドファンディングといった社会的投資の最新の動向と具体的な実践事例に関する講義の後、国や自治体における資金調達について議論を行った。

方法 ビデオ会議アプリ(zoom)を用いたオンライン開催

＜2021 年度第 2 回関西セミナー＞

日時 2021 年 7 月 24 日 (土) 10:00～12:00

テーマ 発展途上国に対する体育分野からの国際教育協力の在り方

ーカンボジアを事例としてー

講師 海野勇三 氏(愛知学院大学教養部教授)

概要 カンボジアの初等・中等学校に運動会

や体育の支援をされてこられた経験やこれらを通じた国際支援に関する講義の後、今後の国際支援のあり方について議論を行った。

方法 ビデオ会議アプリ(zoom)を用いたオンライン開催

＜2021 年度第 3 回関西セミナー＞

日時 2021 年 11 月 20 日 (土) 13:00～15:00

テーマ メディアから見た東京オリンピック・パラリンピック

講師 国貞仁志 氏(京都新聞社東京支社記者)

概要 開催の是非を巡る政治判断や組織委員会の様々な不祥事があった東京オリンピック・パラリンピックをメディアの視点からどのように捉えていたのか、実務の立場からの講義の後、今後のスポーツ政策について議論を行った。

方法 ビデオ会議アプリ(zoom)を用いたオンライン開催

＜2021 年度第 4 回関西セミナー＞

日時 2022 年 1 月 22 日 (土) 13:00～15:00

テーマ 海外におけるサッカー・ヘディング規制の背景と最近の動向について

講師 石堂典秀 氏(中京大学スポーツ科学部教授)

概要 サッカーにおける子どもを対象としたヘディング制限について、海外の事例や日本での取り組みに関する講義の後、安全・安心にスポーツを行うための制度設計について議論を行った。

方法 ビデオ会議アプリ(zoom)を用いたオンライン開催

《第 32 回学会大会案内》

第 32 回学会大会は、2022 年 11 月 26 日(土)・27 日(日)に東京成徳大学東京キャンパスを会場としての開催を予定しております。学会員の皆様におかれましては、ぜひご参会下さいますようお願い申し上げます。

《2021 年度総会・理事会報告》

＜第 1 回理事会＞

日時：2021 年 3 月 23 日(火) 12:40～13:00

※Zoom オンライン会議

【審議事項】

- (1) 2021-2022 年度理事長・事務局長の選任
- (2) 2021-2022 年度理事・運営委員役割分担について
- (3) 2022 年度学会大会について
- (4) その他

＜第 2 回理事会＞

日時：2021 年 6 月 19 日(土) 10:00～12:00

※Zoom オンライン会議

【審議事項】

- (1) 2020 年度第 4 回・2021 年第 1 回理事会議事録(案)の確認について
- (2) 理事会に関する会則変更(案)について
- (3) 日本体育・スポーツ政策学会 2021・2022 年度理事他役割分担(案)について
- (4) 新入会・退会者の承認、会員数の報告について
- (5) 2021 年度学会大会について

【報告事項】

- (1) 学術会議に関する声明について
- (2) 研究誌発行について
- (3) 出版企画について
- (4) 学会賞及び奨励賞について
- (5) 学会ホームページについて
- (6) 会報について

- (7) 関連団体の情報連絡等について
- (8) セミナーについて
- (9) その他

＜第 3 回理事会＞

日時：2021 年 11 月 7 日(日) 10:00～12:00

※オンライン会議 (Zoom)

【審議事項】

- (1) 2021 年度第 2 回理事会議事録(案)の確認について
- (2) 第 1 回東日本セミナー(案)について
- (3) 会則変更について
- (4) 役員・役割分担変更(案)について
- (5) 学会出版物に関する対応(案)について
- (6) 2020 年度収支決算(案)
- (7) 2021 年度総会資料について
- (8) 2021 年度学会大会について
- (9) 学会賞及び奨励賞について
- (10) 新入会・退会者の承認、会員数の報告について
- (11) その他

【報告事項】

- (1) 研究誌発行について
- (2) 会報について
- (3) 学会出版企画について
- (4) 学会ホームページについて
- (5) 関連団体の情報連絡等について
- (6) セミナーについて
- (7) その他

＜第 4 回理事会＞

日時：2021 年 11 月 27 日(土) 11:40～12:25

※オンライン会議 (Zoom)

【審議事項】

- (1) 2021 年度第 3 回理事会議事録(案)の確認について
- (2) 2021 年度総会資料について

- (3) 2022 年度第 32 回学会大会 (案) について
- (4) 入退会者について (案)
- (5) 2021 年度事業進捗報告

【報告事項】

- (1) 研究誌発行について
- (2) 会報について
- (3) 学会出版企画について
- (4) 学会ホームページについて
- (5) 関連団体の情報連絡等について
- (6) セミナーについて
- (7) その他

<総会>

日時：2021 年 11 月 27 日 (土) 12:35～13:20

※オンライン会議 (Zoom)

- 1. 開会
- 2. 会長挨拶
- 3. 議事に先立って
  - (1) 議長選出 (1 名)
  - (2) 議事録署名人の選出 (2 名)
- 4. 審議事項
  - (1) 2020 年度事業報告について (案)
  - (2) 2020 年度収支決算報告について (案)
  - (3) 2022 年度事業計画について (案)
  - (4) 2022 年度収支予算について (案)
  - (5) 2021-2022 年度学会役員変更について (案)
  - (6) 会則変更について (案)

5. 報告事項

- (1) 2021 年度事業進捗報告
- (2) 事務局報告

6. 副会長挨拶

7. 閉会

<第 5 回理事会>

日時：2022 年 3 月 26 日 (土) 10:00～12:00

※オンライン会議 (Zoom)

【審議事項】

- (1) 2021 年度第 4 回理事会議事録 (案) の確認について

- (2) 202 年度総会議事録 (案) の確認について

- (3) 第 31 回大会決算報告 (案) について

- (4) 2022 年度学会大会について

- (5) 次期 (2023-2024 年度) 会長選挙について

- (6) 監事 1 名の欠員補充について

- (7) 「スポーツ政策学」出版企画 (案) について

- (8) 新入会・退会者の承認について

- (9) その他

【報告事項】

- (1) 研究誌発行について

- (2) 会報について

- (3) 学会出版企画について

- (4) 学会ホームページについて

- (5) 関連団体の情報連絡等について

- (6) セミナーについて

- (7) 第 31 回学会大会アンケート結果について

- (8) その他

《学会誌の原稿募集について》

学会誌「体育・スポーツ政策研究」の原稿を募集しております。投稿規定をご確認の上、編集委員会事務局へ、word ファイル形式の原稿をメール添付にてご送付ください。

「体育・スポーツ政策研究」編集委員会事務局

Email [jspes.edit@gmail.com](mailto:jspes.edit@gmail.com)

北海道教育大学岩見沢校 武田丈太郎研究室

《2021 年度新入会員》

〔正会員：一般〕

紺谷遼太郎 (長崎短期大学)

植田真帆 (東海学園大学)

〔正会員：学生〕

石井和宏 (岡山大学大学院教育学研究科)

(敬称略、所属等はいずれも当時)

《会員数》

2021年3月23日現在の会員総数は、218名です。入会を希望の方がございましたら、入会申し込み案内をお送りいたしますので、事務局までご連絡ください。

《事務局便り》

◇住所変更などはお早めに事務局へ

ご異動等によるご住所・所属・連絡先等の変更がある方は、FAX等にて至急事務局までご連絡ください。

◇年度会費お支払いのお願い

令和3年度会費、前年度までの未納会費のお振込みをお願いいたします。

口座名：日本体育・スポーツ政策学会事務局  
郵便口座 No. : 00130-4-561426

◇学会誌のバックナンバーについて

学会誌「体育・スポーツ政策研究」のバックナンバーを1部2千円にて配布しております。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

◇学会ホームページについて

下記 URL でホームページが開設されています。

<http://www.jspes.org>

◇出版企画のご案内

現在、会員の皆様のご協力のもと、スポーツ政策シリーズ2「地方におけるスポーツの価値実現の実像」(株式会社晃洋書房)の出版に向けて作業を進めております。2022年中に発刊される予定です。発刊日等決まりましたら、HP等で改めてご連絡いたします。

◇新領域設立

本学会の関連団体として、日本体育・スポーツ・健康学会内に「体育・スポーツ政策専門領域」が設立されました。

<https://sites.google.com/view/jspehss-ppes>

日本体育・スポーツ政策学会 会報第31号

発行日：令和4年3月31日

発行人：日本体育・スポーツ政策学会

会長 横山勝彦

編集：理事会広報担当 田中聡

運営委員 沖村多賀典

事務局：〒520-0503

滋賀県大津市北比良1204

びわこ成蹊スポーツ大学

黒澤寛己 研究室

Email [sportseisaku@gmail.com](mailto:sportseisaku@gmail.com)